
スーパーカップの呪い

葵 景子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スーパーカップの呪い

【Nコード】

N8400A

【作者名】

葵 景子

【あらすじ】

僕を襲ったスーパーカップのお話さ

ある日、僕はスーパーカップに呪いをかけられた。
呪いと言っても、金縛りにあったりなどではない。

僕にとっては、そんなもの、この呪いよりは容易いものだ。

悪魔は、この僕に呪いをかけることにしたんだ。
そして、それは見事的中。悪魔に、一本、いや、二本かな。出し抜かれてしまった。

僕は、小学5年生。

少し背は高い、158センチメートルだ。

そして、体格は……

もつと良い、58キログラム。

なぜこんなに体格が良いのかって??それは、僕がお菓子が大好きな一人っ子の坊やだからさ。

普通だったらきつといじめられてしまっだろうが、なぜか僕はやらない。

きつと、お父さんが空手をやっているのが、広まったからなんだろうな。

まあ、僕はざつと説明して、こんなところだ。

特技も特にないし、好きな子だってまだいない。

そんなただの少年だったのに。。。

ある日、スイミング（少おしでぶつちな僕でも、習っているんだ！！悪いか？？）から帰ってきた僕は冷凍庫からアイスを取り出して食べた。良い子も知ってる、明治エッセルスーパーカップだ。

明治エッセルスーパーカップは、安い上に量が多く、また味もおいしいので、僕は最近お母さんによく頼んで買ってきてもらっている。もちろん、お母さんも大喜び！！ハーゲンダッツじゃないからね！！家計も大助かりさ

そして、今日はついていたのか、いつもはバニラ味だけなのに、チョコレート味があったのだ。しかも、しっとりチョコチップ入り！！！！

これはまるで僕のために買っておいたようなものではないか！！！！僕は一人でそんな事を思いながらチョコ味カップに手をのばした。カップをとり、食器棚に向かった。そして、少し高級だろうと思われる金色のスプーンを取り出した。舌なめずりをし、カップの蓋を開けた。

一口、二口。

少し苦いしつとりチョコチップが、あま〜いチョコ味アイスにからみ、おいしい。

「こいつはおいしい!!」

スプーンは軽快にアイスをすくい、僕の口に入ってきた。

「うまい!!こいつはおいしすぎる!!98円でこれは良いのか!」

僕はアイスを食べながらそんな馬鹿げた事を思った。

これが、悪夢の始まりとは知らずに・・・。

次の日、僕は学校から帰ってきてすぐさま冷凍庫を開けた。

ない!!!僕のチョコ味カップ!!!

なぜバナラしかないんだ!!!!!!

そりゃそうだ。昨日僕が1つしかないチョコ味カップを食べたのだから。

それから僕はチョコ味カップしか食べれなくなった。もちろん、朝も夜もだ。

そして、僕の体重は一気に3キロ太り！！！！

けれど、なかなかやめられない明治エッセルスーパーカップのチョコ味カップ！！！！！！

早く！！早くチョコ味カップを買ってくるんだ！！

そして僕はとうとう倒れてしまった。
チョコ味カップをしっかと持って。

そして僕は次の日から、バニラ味だけを食べる事になる。。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8400a/>

スーパーカップの呪い

2010年11月26日13時07分発行